

阪神・淡路大震災以降、 20年近くボランティア活動を継続。

増金 スミ子さん 神戸市 67歳

阪神・淡路大震災をきっかけに高齢者見守り活動。

もともと地域でボランティア活動をしていた増金スミ子さんは、平成7年の阪神・淡路大震災の直後、岩岡仮設住宅救済支援訪問のボランティアに参加。これをきっかけに、地元の独居高齢者宅の見守り・生活支援活動を始めました。以来20年近くにわたって、この活動を続けています。

また、平成12年からは、地元西区内の小学校で毎週2回程度の学習支援活動も行っています。この活動は、現在は岩岡小学校で行っていますが、以前には垂水養護学校や糀台小学校でも実施していました。

みんなの気持ちを明るくしてきて大道芸を。

「阪神・淡路大震災後にみんなが暗くなっていた時に、大道芸をテレビで見て『これだ！』

と思いました」と語る増金さん。「腹話術を勉強しに行き、南京玉すだれ、皿回し、銭太鼓などを習い覚え、最初は一人でやりましたが、『私も教えてほしい』というお客さんからの希望があつてグループを作りました」と、増金さんが平成8年に地元の仲間と結成したのが大道芸グループ「初代二寸奉仕」です。

保育園や幼稚園、児童館、高齢者福祉施設など市内各所で触れあい交流活動を開始し、玉すだれ、銭太鼓、動物風船、皿回し等の実演を行いました。

この活動は、増金さんが神戸市シルバークレッジ(KSC)に入学した2年目の平成17年に、同期生と結成



したボランティアグループ「二寸奉仕」に受け継がれ、KSCボランティア

センター傘下の活動グループとして市内各所で、活動を本格化させました。

「楽しくて仕方がないんですよ。みんなの反応がありま

すからね。喜んでくれる顔を見ているのが、本当にうれしいんです。小学校へ行ったりした後は、私も笑って家に帰るんですよ」と笑顔で話す増金さん。多い時には月に5、6回、老人ホームや児童館、小学校などに行き、大道芸を披露。平成12年に婦人大学の仲間と結成した大道芸集団「ときめきグループ」での活動と共に、より幅広い活動となりました。

幅広いボランティア活動を、幅広い地域で。

平成19年にKSCを卒業すると「二寸奉仕」は「NPO法人社会還元センターグループ」の文化部会(現福祉部会)所属ボランティアグループに編入され、さらに活動を継続。ま

た、「グループわ」が力を入れてきた「東日本大震災被災地支援活動」に関しても、第1次から第5次まで毎回連続して現地派遣支援チームの一員として参加し、支援活動に貢献しています。

福井重油流出事故、新潟中越地震、東日本大震災等、被災地支援活動でも支援活動に従事。大道芸実演グループの活動も、エンターティナーとして各種イベントの出演要請に幅広く対応。増金さんの活動地域は定例訪問する地域に留まらず、市内全域や県外にも及んでいます。

